

# “がんばる”よりも“楽しく”がモットー!



四季文化館企画実行委員  
みのんば編集局

かとうあっこ  
**加藤篤子**さん

「初めてのことは多少不安があっても、飛びこんでみると楽しい」と語る加藤さん

みの~れと共に生活するスタイル

**Minole Life**  
のすすめ

No.106

加藤さんとみののれとの出会いは、平成25年度にみののれの自主事業として行われた『フェイスブックであなたを伝えよう!』の実行委員になったことです。そこで、情報発信の大切さを学び、それからすっかり、みののれの魅力にとりつかれてしまったそうです。「若いうちって、特技とか仕事を頑張ろうとか、人より上手になろうとかという気持ちが一番気になったのですが、年を重ねていくうちに楽しくやりたいなって思うようになりました。それから何度もみののれに来るようになって、『こうしたらいいな!』とか、『あしたらしいな!』とか考へるようになったり、とうとうみののれが大好きな住民の方々と構成され、みののれの全体的な方向性を話し合う企画実行委員に応募しました」とみののれの魅力について話してくれました。

## いつかきつと あの大舞台で!

4月から2期目の企画実行委員になる加藤さんですが、「1期目は様子を探るとい形でした。どんな小さな課題にも耳を傾けてみんので話し合いをするところが素晴らしいと思います。自分たちが楽しく会議をしていけば、周りの人たちにも伝わりやすそうですね。2期目も楽しんでいきたいなと思います」と笑顔で話してくれました。

おみたマガジンの取材、記事作成を行うみのんば編集局のメンバーでもある加藤さんは「まだまだ新人です・最初は、私が文章を書くなんて信じられませんでした。しかも、人に読んでもらう記事を書くなんてビックリです。でも、おみたマガジンの取材に行くのは、毎回色々な発見や出会いがあるのでもっとも楽しみです。今こうして外に出られるようになったのは子どもも大きくなり、孫もある程度大きくなったからです。自分で川を見つけてその流れに乗って暮らせるのが幸せです」と加藤さん。

加藤さんの趣味は、『新舞踊』の和の踊りと、『ベリーダンス』の洋の踊りを習っていること。舞踊は地区の人たちと三世代交流の時に披露するために始めました。着物も自分で着られるようになって良かったです。ベリーダンスは今までにやった事のないことをやってみたい!と思った時に、ちょうど映画の『TANUKA短歌』を観て、キラキラした衣装の魅力に我を失い(笑)、カルチャーに入りこんでしまいました。最終的にはベリーダンスもみののれの大舞台で踊れたいなと思っています」と話す加藤さんは生き生きしていました。

(藤田佐知子)